

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	171100381		
法人名	ちば設備工業 株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ		
所在地	〒066-0067 北海道千歳市桂木町3丁目1-2 (電話) 0123-22-6671		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果市町村受理日	平成23年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho.net/hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100381&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人北海道シルバーサービス振興会
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7)4階
訪問調査日	平成23年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり近隣は緑も多く季節感は十分に満喫でき自然と触れ合う機会をつくってます。家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切に、入居者が笑顔の多い生活が出来ますように又、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し出来るだけ個性のある支援を行っています。当ホームの運営理念にも謳われている様に「支えあい、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭に入れ日々、頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千歳市郊外の住宅地の一角にある2ユニットの事業所である。周辺には千歳川、緑豊かな公園があって利用者と四季折々に散策できる自然を楽しめる環境である。運営推進会議を通じ地域との交流も盛んで婦人部のひな祭りに招待されたり、敬老会(町内会)のカラオケ大会を事業所で開催し全員が歌い楽しんでいる。事業所の夏祭りには地域のボランティアや交流のある幼稚園からテントやテーブルを借り、障害者施設からはパンを提供してもらうなど地域資源との協働も出来ている。また、地域で認知症の人への理解や介護の相談に応じたり実習生を受け入れるなど、事業所としても地域に還元している。市内のグループホームで結成された「絆の会」がスポーツセンターを借り切って大運動会を開催し利用者、家族、地域住民、職員の家族と総勢300人以上の参加となり、盛大な催しとなった。利用者は、日頃の様子とは別人のようにはしゃぎ、汗を流し、仲間を思いやるなど発見も多く、職員は利用者の笑顔に触れることが何よりのエネルギーと実感したところである。この「絆の会」では職員研修、相互訪問、相談など職員の研鑽の場所になっている。また、ホーム長はこの会の役員も務め市内のグループホームのリーダー的存在で、地域との双方向的な連携や家族会との相互交流など今後に期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・スタッフルーム等、皆が集う場所に提示しており、日々の申し送りやミーティング時に職員同士唱和し確認しあい、実践に向け取り組んでいる。	理念は職員全員で地域密着型を踏まえて3年前に作成している。毎月のミーティングで唱和、共有し、日々のケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事・カラオケ会のお誘いを受け参加させて頂いている。当ホームの行事等も回覧版でお知らせさせて頂き交流を深めている。	地域とは運営推進会議や回覧板を通して町内敬老会、婦人部ひな祭、事業所の運動会に参加してもらい双方向的な連携ができています。地域で相談や実習生の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中での地域の方との交流の際や運営推進会議を通して認知症の方への理解や支援の方法を深めて頂くよう働きかけています。ホームヘルパー講習の実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い日常の活動報告、事故報告をしている。参加されている町内会役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。	運営推進会議は2ヵ月毎に開催され認知症への地域の理解や協力を求め意見、情報を頂くなど多様な話し合いがされている。そこでの意見は職員間で共有し、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは主に施設長が行政との連絡や情報収集に努めています。千歳市の地域包括ケア会議に出席し他事業所の方々との交流や情報交換しサービスの向上に努めています。	地域包括支援会議に出席して情報を共有している。市の介護保険課、保護課とは運営や現場の実情等を報告し、相談やアドバイスを受けながら協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関施錠しない事を含みスタッフ全員身体拘束を行わないケアを実践している。又、ミーティング時でも、常に確認し合っている。	職員は「身体拘束に当たる具体的な行為」について内外の研修で理解しており周知し、拘束をしない取組を徹底している。職員の見守りと工夫により、1階の非常口は鍵が掛けられていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習会に参加し理解浸透に努めている。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全員は把握していない。入居者様の中に権利擁護の生活支援人・保佐人を利用されている方もいる。必要と思われる方には活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項などの説明を十分行い、理解、納得した上でサインして頂いています。契約後や契約内容の改定に関しての疑問等には随時説明し理解、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている。日々の生活の中で行動・言動・表情によりその方の思いを汲み取る努力をしています。	家族会や運営推進会議の中で意見や思いを伝えられる機会を作っている。疎遠な家族には電話で気軽に話せるよう導き、表出した意見は運営に反映するよう努めている。定期的にホーム便りを発行している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は日常的に受け入れ、必要事項はミーティング時に意見や提案を伺っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様に努めている。又、会議で話し合い働きやすい環境作りを常に考え取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、なるべく多くの職員が法人内外の研修を受講出来るようにしています。定期ミーティングの際ホーム内研修を行ったり外部研修に出席した際、送り講習を行い、情報の共有を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者のネットワークが立ち上がり月に1度交流会が設けられ、勉強会を行い相互の意見交換を交わしサービスの質の向上の取り組みをしている。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より本人待機の方とは話を伺える機会を設け、顔なじみの関係を作るように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ご家族の要望、意見を十分伝えて頂き、面会やモニタリング等の際、入居者様の日常生活の様子、身体的な事をお伝え、相談しています。気軽に話して頂ける関係作りに努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状態を確認し、必要なサービスに繋がる様に柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来るように努めています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しみながら生活して頂ける様、職員間で常に考え、仕事をしている。一方的ではなく共感する事を多く関係を築いています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族の共有時間がより持てるように努めています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの美容室、お墓参り、温泉入浴、カラオケなどの外出支援、知人、友人等に電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりを継続出来るように支援している。	利用者は行きつけの美容室に通い、墓参りや温泉には家族の協力で実現できている。家族の了解を得て、知人と馴染みのカラオケに出かけるなど、繋がりを切らない継続的な支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの入居者様がリビングで過ごす事が多く、スタッフ交えて会話や歌を唄ったり、食後、他の入居者様の食器を片付けされたり、支えあって生活出来る様支援に努めています。			

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には顔を見に行ったり、退去後もお見舞いに伺ったりしている。その時々で、手紙を送り、行事のお誘いをしたりこちらの状況を伝えている。退去された方のご家族様がボランティアに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報により、習慣、趣味等を把握し、日々の関わりから言葉、表情で本人の意向を汲み取りカンファレンス等で検討している。	利用者の思いや意向は、日頃の関わりの中や家族からの聞き取りで把握している。困難な場合は表情、しぐさ、行動から本人本位に職員間で検討し、共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からの情報を集めたり日々の会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身の状態を見極め、できる事、できそうな事を支援している。見守りし待つ事一緒に喜ぶ事、感謝する事も職員は心得ている。個人記録、送りで情報の共有をし把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や思いなどを聞ける場合はご本人に聞き取りされている。ご家族の意向も聞き取りし、モニタリング・カンファレンス・ミーティングで職員の意見交換があり、介護計画が作成されている。	本人の意見や思い、家族の要望を踏まえ職員間で検討し、カンファレンスでプランを作成している。モニタリングで気付きやアイデアを出し合い、見直しを行い現状に即したプランにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気付き等、日常の様子をプランに沿って記入し各勤務帯で申し送りし情報の共有が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、洗濯、買い物など基本ご家族様にお願いしていますが、遠方や携わることが居ない方に対し、又ご家族の負担軽減から、往診対応、薬局との連携、クリーニング委託など行い柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方によるカラオケ大会、お餅つき大会、町内清掃に参加等行っている。消防機関との避難訓練を通し連携を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、往診を受けています。その他、かかりつけ医に定期受診している。着変ある際はご家族相談の上、介護添書持参し受診、緊急時は管理者が対応し支援しています。歯科往診・マッサージ師の訪問もある	月に1度、協力医の往診を受けている。他のかかりつけ医には基本的に家族が対応し、時には職員も送迎の支援をしている。歯科も必要時に往診を受け、週に1度の訪問看護では機能低下防止体操を実施している。	

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約でき、週1回の健康チェックを受けており入居者様の状態の把握や健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。ご家族・医療機関の相談員等と連携しながらご本人との面会を行い、早期退院に向けて話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明している。また、重度化した場合でも協力機関と連携しながらご本人との面会を行い、早期治療に向け話し合いを行っています。	事業所として終末期に向けた指針は作成しており、入居者、家族には説明を行っているが、十分な説明や意思確認までには至っていない。	終末期に向けての事業所の方針は定めているので、チームとして支えていくための職員の意識統一とケアの向上、各関係機関との連携体制作りなど今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変マニュアルがあり、職員がいつでも見れる場所に保管している。全員ではないが救急救命講習を受け事故発生時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防火自主点検表にチェックを行っている。年2回の避難訓練、及びスプリンクラーの設置を実施している。入居者様のご家族・町内会の方の協力も得られている。	防災訓練は昼夜を想定して定期的に行っている。地域住民には消防署員から具体的な支援方法を示し、協力体制も出来ている。事業所内の防災点検項目を作成し、毎日点検確認も行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者様のプライバシー保護を重視し気分を損ねる言葉掛けは行わない様、十分配慮し対応しています。	利用者一人ひとりの性格や状況を把握し誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや支援をしている。情報の管理にも徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ、その人らしい希望で願いを引き出せる様に取り組んでいる。表現が上手く出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さない様に自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせられるように、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選び、身支度はご本人が自由に選べるようにしています。お化粧品・アクセサリー・ヘアスタイルは個々に合わせて支援しています。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(材料刻み・盛り付け・後片付け)などを手伝って頂いたり力を発揮出来る場を設ける様に工夫をしたり、日常の中で何気なく何が食べたいか聞き取り、可能な限りメニューに取り入れる努力をしている。	食事の準備には利用者が食材を刻み、盛り付け、テーブル拭きなど協力して頂き、献立は利用者の好みを活かしている。菜園で採れたイチゴでジャム作りやおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を工夫して提供している。水分摂取が難しい方にはゼリーなどで対応している。又、使用しやすい食器選びを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々に応じ継続的に支援されています。義歯の清潔保持もされている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っている。なるべくオムツの使用を控えてトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。リハビリパンツやパット使用には誘導や声かけで失敗を減らす支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のある物を取り入れたり、ヨーグルトを入れたり工夫している。水分は確認表を利用している。入居者様の状態に合わせた体操を実施している。医師と相談して下剤の処方もお願いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけし、意思確認し、入居者様のその日の気分や状況により行っている。入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。	入浴は週2~3回を目途に支援している。利用者の気分や状態によって声かけし、時にはシャワー浴もある。柚子や薬草の入浴剤などで香りを楽しみ、リラックスして入浴を楽しむ工夫に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じ休息、昼寝は確保されている。入床や起床時はご本人のリズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については理解出来ている。薬の変更、臨時薬は申し送りノートで情報を共有し、状況に変化があった場合は主治医・かかりつけ薬局の薬剤師と連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、テレビ鑑賞、音楽鑑賞、入居前に続けていた楽器など個々にあった楽しみが出来るよう支援している。踊りや詩吟を習っていた方はホームの行事で披露して頂いている。		

グループホーム かつらぎ 1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分や希望に応じ散歩に出る機会を作ったり、希望により近隣のスーパーに出かけられるように支援している。又、季節ごとに行事計画を立て、出かける機会を作っています。	利用者の希望に沿って近隣散歩や買い物、町内会行事への参加にと楽しんでいる。その他季節毎の事業所行事には家族の協力を得て外出の機会を多くしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはご家族の了解を得て、買い物の支払いをしています。事業所で管理している方でも外出時はご自分で支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。一連動作、作業ができない部分はお手伝いさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一つ一つの窓が大きく日差しが十分に入り、明るく、暖かくゆったりとしたリビングでくつろげ、生活音にも気を配り食事中は音楽を流している。季節に合わせた飾り物など飾っています。近隣は緑も多く、季節感は十分に満喫できる。	台所を中心に回廊形式になっている。明るく、ゆったりとしたリビングには動物親子のぬくもりのある写真や絵画が飾られてあり、心温まる空間になっている。春の日差しが差し込み、雛人形や植物が季節を感じさせ、利用者は思い思いに寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士ソファで談話、テレビ鑑賞したり、食卓テーブルにて塗り絵、折り紙、パズル等され、廊下歩行運動されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談して使い慣れた物を持ってきて頂き安心して日常生活が持続するよう理解を得ている。	居室には押入れが備え付けられている。タンスやテレビ、小型の冷蔵庫など慣れ親しんだ家具や衣類、装飾品などの小物を持ち込み安心して過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内バリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。見やすい時計、日めくり、トイレマークを必要に合わせ対応し環境整備を実施し安全に自立した生活が出来るよう工夫をしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171100381		
法人名	ちば設備工業 株式会社		
事業所名	グループホーム かつらぎ(2階)		
所在地	〒066-0067 北海道千歳市桂木町3丁目1-2 (電話) 0123-22-6671		
自己評価作成日	平成23年2月4日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は郊外の住宅地にあり近隣は緑も多く季節感は十分に満喫でき自然と触れ合う機会をつくってます。家庭的にゆっくり過ごせる雰囲気作りを大切にし、入居者様が笑顔の多い生活が出来ますように又、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し出来るだけ個性のある支援を行っています。当ホームの運営理念にも謳われている様に「支えあい、喜び合い、ふれあい、慈しみあい、地域の中で共に歩みます」を念頭に入れ日々、頑張っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171100381&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(けでる2・7)4階		
訪問調査日	平成23年2月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・スタッフルーム等、皆が集う場所に提示しており、日々の申し送りやミーティング時に職員同士唱和し確認しあい、実践に向け取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事・カラオケ会のお誘いを受け参加させて頂いている。当ホームの行事等も回覧版でお知らせさせて頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の生活の中での地域の方との交流の際や運営推進会議を通して認知症の方への理解や支援の方法を深めて頂くよう働きかけています。ホームヘルパー講習の実習生の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議を行い日常の活動報告、事故報告をしている。参加されている町内会役員の方、ご家族の意見や要望を聞き、サービスの向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村へは主に施設長が行政との連絡や情報収集に努めています。千歳市の地域包括ケア会議に出席し他事業所の方々との交流や情報交換しサービスの向上に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関施錠しない事を含みスタッフ全員身体拘束を行わないケアを実践している。又、ミーティング時でも、常に確認し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の講習会に参加し理解浸透に努めている。		

グループホーム かつらぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については全員は把握していない。入居者様の中に権利擁護の生活支援人・保佐人を利用されている方もいる。必要と思われる方には活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項などの説明を十分行い、理解、納得した上でサインして頂いています。契約後や契約内容の改定に関する疑問等には随時説明し理解、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置をしている。日々の生活の中で行動・言動・表情によりその方の思いを汲み取る努力をしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見、提案は日常的に受け入れ、必要事項はミーティング時に意見や提案を伺っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働ける様に努めている。又、会議で話し合い働きやすい環境作りを常に考え取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、なるべく多くの職員が法人内外の研修を受講出来るようにしています。定期ミーティングの際ホーム内研修を行ったり外部研修に出席した際、送り講習を行い、情報の共有を図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内同業者のネットワークが立ち上がり月に1度交流会が設けられ、勉強会を行い相互の意見交換を交わしサービスの質の向上の取り組みをしている。		

グループホーム かつらぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前より本人待機の方とは話を伺える機会を設け、顔なじみの関係を作るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前ご家族の要望、意見を十分伝えて頂き、面会やモニタリング等の際、入居者様の日常生活の様子、身体的な事をお伝え、相談しています。気軽に話して頂ける関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思い、状態を確認し、必要なサービスに繋がる様に柔軟な対応をしています。その人らしいケアプランが出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	楽しみながら生活して頂ける様、職員間で常に考え、仕事をしている。一方的ではなく共感する事を多く関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づき等をお便りや面会時にお知らせしています。又、行事等へのお誘いを行いご本人とご家族の共有時間がより持てるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの行きつけの美容室、お墓参り、温泉入浴、カラオケなどの外出支援、知人、友人等に電話や手紙での連絡を取り持つ等、繋がりを継続出来るように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	殆どの入居者様がリビングで過ごす事が多く、スタッフ交えて会話や歌を唄ったり、食後、他の入居者様の食器を片付けされたり、支えあって生活出来る様支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には顔を見に行ったり、退去後もお見舞いに伺ったりしている。その時々で、手紙を送り、行事のお誘いをしたりこちらの状況を伝えている。退去された方のご家族様がボランティアに来て頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報により、習慣、趣味等を把握し、日々の関わりから言葉、表情で本人の意向を汲み取りカンファレンス等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努め	ご家族、ご本人からの情報を集めたり日々の会話の中から生活歴、環境、交友関係等を探りケアに役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日、その時の心身の状態を見極め、できる事、できそうな事を支援している。見守りし待つ事一緒に喜ぶ事、感謝する事も職員は心得ている。個人記録、送りで情報の共有をし把握できている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意見や思いなどを聞ける場合はご本人に聞き取りされている。ご家族の意向も聞き取りし、モニタリング・カンファレンス・ミーティングで職員の意見交換があり、介護計画が作成されている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録を用いてケアの実践、結果、気付き等、日常の様子をプランに沿って記入し各勤務帯で申し送りし情報の共有が出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、洗濯、買い物など基本ご家族様にご利用していますが、遠方や携わること家族が居ない方に対し、又ご家族の負担軽減から、往診対応、薬局との連携、クリーニング委託など行い柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方によるカラオケ大会、お餅つき大会、町内清掃に参加等行っている。消防機関との避難訓練を通し連携を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族と相談の上、往診を受けています。その他、かかりつけ医に定期受診している。著変ある際はご家族相談の上、介護添書持参し受診、緊急時は管理者が対応し支援しています。歯科往診・マッサージ師の訪問もある		

グループホーム かつらぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約でき、週1回の健康チェックを受けており入居者様の状態の把握や健康管理を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供しています。ご家族・医療機関の相談員等と連携しながらご本人との面会を行い、早期退院に向けて話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にて重度化した場合の事業所が対応しえる最大のケアについて説明している。また、重度化した場合でも協力機関と連携しながらご本人との面会を行い、早期治療に向け話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変マニュアルがあり、職員がいつでも見れる場所に保管している。全員ではないが救急救命講習を受け事故発生時に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、防火自主点検表にチェックを行っている。年2回の避難訓練、及びスプリンクラーの設置を実施している。入居者様のご家族・町内会の方の協力も得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常的に入居者様のプライバシー保護を重視し気分を損ねる言葉掛けは行わない様、十分配慮し対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の能力に合わせ、その人らしい希望で願いを引き出せる様に取り組んでいる。表現が上手く出来ない人には、サインや行動や表情を見逃さない様に自己決定できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者様のペースに合わせられるように、その人が何をしたいかと言う気持ちを尊重し出来るだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の洋服選び、身支度はご本人が自由に選べるようにしています。お化粧品・アクセサリー・ヘアスタイルは個々に合わせて支援しています。		

グループホーム かつらぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の得意な事(材料刻み・盛り付け・後片付け)などを手伝って頂いたり力を発揮出来る場を設ける様に工夫をしたり、日常の中で何気なく何が食べたいか聞き取り、可能な限りメニューに取り入れる努力をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量、形態を工夫して提供している。水分摂取が難しい方にはゼリーなどで対応している。又、使用しやすい食器選びを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをし	毎食後の口腔ケアは個々に応じ継続的に支援されています。義歯の清潔保持もされている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しそれぞれの排泄パターンに応じてトイレ誘導を行っている。なるべくオムツの使用を控えてトイレで排泄できるよう取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニューに繊維質のある物を取り入れたり、ヨーグルトを入れたり工夫している。水分は確認表を利用している。入居者様の状態に合わせた体操を実施している。医師と相談して下剤の処方もお願いしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声かけし、意思確認し、入居者様のその日の気分や状況により行っている。入浴剤や室内温度にも注意を払いリラックスして入浴できるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣、その時々に応じ休息、昼寝は確保されている。入床や起床時はご本人のリズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量については理解出来ている。薬の変更、臨時薬は申し送りノートで情報を共有し、状況に変化があった場合は主治医・かかりつけ薬局の薬剤師と連携を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味、テレビ鑑賞、音楽鑑賞、入居前に続けていた楽器など個々にあった楽しみが出来るよう支援している。踊りや詩吟を習っていた方はホームの行事で披露して頂いている。		

グループホーム かつらぎ 2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の気分や希望に応じ散歩に出る機会を作ったり、希望により近隣のスーパーに出かけられるように支援している。又、季節ごとに行事計画を立て、出かける機会を作っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方にはご家族の了解を得て、買い物や支払いをしています。事業所で管理している方でも外出時にご自分で支払うよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にして頂いている。一連動作、作業ができない部分はお手伝いさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一つ一つの窓が大きく日差しが十分に入り、明るく、暖かくゆったりしたリビングでくつろげ、生活音にも気を配り食事中は音楽を流している。季節に合わせた飾り物など飾っています。近隣は緑も多く、季節感は十分に満喫できる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士ソファで談話、テレビ鑑賞したり、食卓テーブルにて塗り絵、折り紙、パズル等され、廊下歩行運動されている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、ご家族と相談して使い慣れた物を持ってきて頂き安心して日常生活が持続するよう理解を得ている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内バリアフリーになっており、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。見やすい時計、日めくり、トイレマークを必要に合わせ対応し環境整備を実施し安全に自立した生活が出来るよう工夫をしています。		